

木田宏オーラルヒストリー等から見る

資料の保管・活用の重要性について

谷里佐、木幡智子、後藤忠彦（岐阜女子大学）

木田宏先生（1922～2005）は、文部省教科書局（1946～）での米国の司令部との折衝のご経験から、資料の重要性を強く認識され、亡くなる前年まで、木田宏オーラルヒストリーとして話の記録をされた。そして、さまざまな場面で、教育資料の保管活用の実践や重要性について示唆されている。そこで、木田宏オーラルヒストリー等から資料の保管・活用の必要性についての示唆や実施された事柄について示す。

1. 戦後、米国の司令部との折衝や検定教科書の発行での資料の収集・保管・活用の必要性

(1) 米国の司令部との折衝での米国と日本の資料の整理・保管の違い

戦後の米国の司令部との折衝で、米国の関係者からは、整理、タイプされた資料が出されたのに対し、日本側にはそういった資料が無く困ったことから、資料の整理・保管の重要性をオーラルヒストリーで発言されている。

(2) 国定教科書から検定教科書への移行での教材資料の保管・活用の必要性

木田宏先生は、昭和21年から、国定教科書から検定教科書への移行を担当され、著書『新教育と教科書制度』（実業教科書（昭和24年1月））の最後の章に、教科書等の作成にあたっては、文部省等での教育資料の収集・保管と関係者が活用できるようにすべきと書かれている。



『新教育と教科書制度』

2. 歴代文部大臣式辞集・戦後の教育行政に関する資料集

(大臣官房総務課長 昭和35年～)

(1) 『歴代文部大臣式辞集』の収集・印刷

『歴代文部大臣式辞集』は、文部省大臣官房総務課が刊行した歴代文部大臣の式辞や文部大臣一覧、年表等である。木田宏先生が大臣官房の総務課長のときにまとめられた。木田先生は、戦後の文部大臣のあいさつ文が整理・保管されていなかった状況を鑑み、あいさつ文は、時代の背景を知る重要な資料であるとして、収集(整理)・印刷された。

(2) 戦後の教育行政等の資料集

教育基本法の国会審議から組合の活動等、各種の戦後の教育関係に関わる資料について、若手の職員に資料の収集・整理を指示され、ガリ版印刷（各数冊）された。これらは、現在では、戦後の各分野の動向を知る重要な資料である。

3. 国立教育研究所に教育情報センターの設置

文部省が学制百年記念事業として、教育情報センター構想を審議したが、昭和48年のオイルショックで中断した。その後、昭和59年に国立教育研究所（木田宏所長）で行われた「昭和59年度教育情報センター構想に関する調査研究会」で教育情報センターの審議の報告が出され、昭和60年に設置されている。そこでの、教育情報の構成は次のようであった。

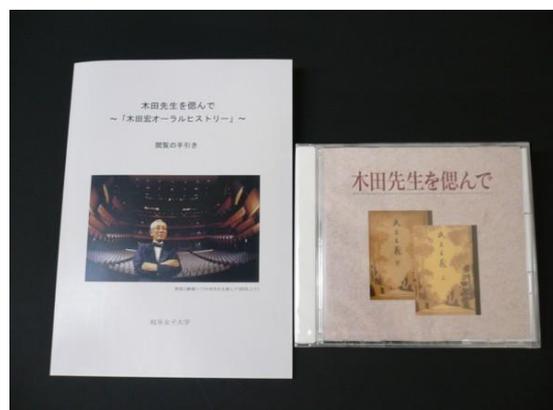
- ①教育研究論文 ②教育研究報告 ③学位論文 ④教育センター等の機関誌 ⑤教育関係図書
- ⑥雑誌、新聞等 ⑦教育実践報告 ⑧教科書、教材等 ⑨学力テスト問題、教育測定、評価問題
- ⑩公文書、法規、凡例、議事録 ⑪史料 ⑫統計資料
- その他 国外の教育情報

その後、教育情報センターでは、授業計画、教材（デジタル教材含む）、カリキュラム関係資料も保管された。現在の教育リソースの出発点ともいえる。

4. 木田宏オーラルヒストリー

国立教育研究所の教育情報センター設置のとき、木田宏先生から後藤に先生の著作物のリストを提供された。

その後、木田宏先生の教育資料の収集・整理、さらにオーラルヒストリーの作成へと発展した。木田宏先生のオーラルヒストリーは、平成7年から始め、亡くなる前年に木田宏オーラルヒストリーデジタルアーカイブとして完成した。（尚、木田先生を偲ぶ会では、DVDで提供した。）



偲ぶ会で提供した木田宏オーラルヒストリー

5. カリキュラム、教育課程審議にはデータが必要

①カリキュラム資料の収集・保管・活用

（教育センター、教育学部等）

木田宏先生は、オーラルヒストリーで、「教育委員会、教育センターの指導主事等は、地域のカリキュラム関連資料を収集・保管・活用し、地域の学校、教員に提供・説明・指導すべきである」とよく言われていた。（木田宏先生のカリキュラムの考え方はOECDのような広い概念をもたれていた。）

②教育課程審議会でのデータ不足

オーラルヒストリーで、教育課程の審議会では、実際を見聞きして、カリキュラムに関するデータをもって検討（審議）すべきであると言われている。

6. 新国立劇場のオペラの舞台装置の保存の必要性

木田宏先生は、よく後藤に若い優秀な者が、毎回オペラの舞台装置を創作し、終われば廃棄している。これらの保管ができないかと言われ、その他にも、各種の事柄について、資料の保管・活用の重要性と必要性を強調され、その一つの方法としてのデジタルアーカイブにも関心を持たれていた。

現在、GIGAスクール構想の学びで必要となる教育リソース、ハイブリッド教育の基礎データとしての教育リソースなど、新しい視点での資料の保管・活用の重要性がでてきた。今後、木田宏先生が、資料の保管・活用について、教育リソースとしてどのような考えをもたれていたか、調査・考察し、今後の実践の参考にすべきである。